香川県中学校教育研究会学校給食部会研究大会

事前研究の手引き

香川県中学校教育研究会学校給食研究部会

（高松市立山田中学校）

# 研究主題

豊かな心とたくましく生きる力をはぐくむ食育のあり方

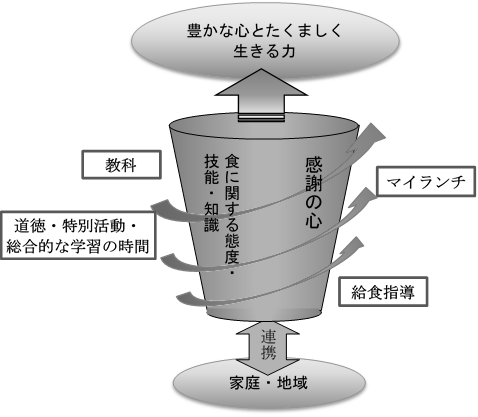
－学校給食における「生きた教材」を活用した指導力の向上をめざして－

# 主題設定理由(主題の分析)

本校の生徒は、給食を楽しみにしている生徒が多い。全体の残菜はほとんどないものの、献立やクラスによって差が見られ、嗜好で料理を選ぶ生徒や必要量が食べきれない生徒が見受けられる。

また、最近の身体計測の結果では、本校の生徒の身長は全国平均を下回っており、肥満傾向の生徒が増加していることがわかった。朝食の摂取量はほぼ県平均であるが、学年によって、県平均を下回っている。このことから、健康や成長のことを考えてバランスの良い食事をとろうとする意識には個人差があり、給食を残しがちな生徒は感謝の気持ちも薄れてきていると考えられる。

これらの課題を解決するために、毎日繰り返される給食を「生きた教材」として活用し、学校の教育活動全体の中で、関連する教科等において食に関する指導を充実させることで、食事の重要性や心身の健康についての正しい知識が身に付き、さらに体験的、協働的な活動の場を設定することで、食生活をよりよくする実践力を身に付けることができるだろうと考えた。

そこで、教科等に関連させて積極的に食に関する指導を行うためには、各教科で給食を生きた教材とした指導の方法を探り、マイランチを中心とした体験的な取り組みを図ることで、豊かな心とたくましく生きる力をはぐくむことができるのではないかと考え、研究主題を「豊かな心とたくましく生きる力をはぐくむ食育のあり方」、サブテーマを「－学校給食における『生きた教材』を活用した指導力の向上をめざして－」と設定した。

# 研究概要

* 1. 研究のねらい
     1. 食に関する正しい知識をもち、主体的に自分の食生活について考え、改善しようとする態度や技能を身に付ける。
     2. 食育を通した人とのかかわりを大切にすることで、感謝の心を育む。

研究構想図

* 1. 研究の実践
     1. 教職員全体で共通理解と正しい知識をもち、指導力の向上を図る。
     2. 道徳・特別活動・総合的な学習の時間・教科でつながりのある食育の授業実践を行う。
     3. 給食指導の充実を図る。
     4. 家庭・地域との連携を図る。

# 研究授業(授業の視点)

２年生　技術・家庭科　日常食の調理「野菜の摂取量を意識して野菜の調理をしよう」

生徒が調理の楽しさや完成の喜びを感じ、学習したことを自らの食生活に生かしていこうとする態度や能力を育てるために次のようなことに留意したい。

* + - 生徒自らが栽培した野菜を調理実習に使用することで、野菜への関心を高め、おいしく調理しようとする意欲付けとする。
    - 学校栄養職員とのＴ.Ｔ.により、給食での調理の工夫を知り、適切な食材の扱い方や調理方法を考える手がかりとする。
    - ただ、調理するだけでなく、食生活の様々な課題を実習計画に取り入れ、食生活の改善につなげる。

# 問題点

* 1. 家庭との連携のあり方
     + マイランチへの理解と協力
     + 家庭への啓発活動
     + 学校での食育活動への理解
  2. 学校全体で計画的に取り組む食育指導
     + 教科や道徳・学級活動等の連携
     + 食育指導の広がりと資料提供の工夫

# 今後の研究課題

今回の研究を通じて、学校給食における「生きた教材」を核とし、食に対する学習を学校教育の様々な場面に位置づけ、全ての教師が連携しながら計画的に指導を進めていくことの大切さや、学校と家庭が連携を深め、保護者の理解と協力を得ながら進めていくことの重要さが明確になってきた。

今後はそれらを実現していくために、いかにして教師自身が意識を高くもちながら、指導力の向上に努めていけるかが課題である。